

# テレノベラ El clon における二つの宗教： イスラム教・キリスト教 — 人間の誕生に関する生命倫理を巡って<sup>1</sup> —

水戸博之

キーワード：テレノベラ、クローン、生命倫理、イスラム教、キリスト教、ラテンアメリカ、ブラジル、スペイン語圏、メディア

## 0. はじめに

本稿は、テレノベラ El Clon の準主人公であるクローン人間 Daniel に対して、学識あるイスラム教徒とカトリック司祭が、いかにして共同し問題の解決を試みようとしたかを検討する。ここでは、二つの宗教の差異を分析することではなく、旧約聖書を聖典あるいは啓典として共有する二宗教が、ドラマにおいて、人間の誕生に関する生命倫理の領域でも連携する可能性が描かれていることを指摘する。このドラマの背景には、3つの社会的テーマ：1) クローン技術と生命倫理、2) 宗教、3) 麻薬が扱われている。<sup>2</sup> 第3のテーマに関しては、薬物乱用防止運動の観点からこのドラマは高く評価されてきたが、さらに、生命倫理と二つの宗教を一つの場面に織り込み描き出す設定にラテンアメリカ文化の一つの特質を見いだせるのではないか。

## 1. 対象となる作品テレノベラ El Clon の資料的状況

本題に入る前に、研究の対象となったドラマがいかなる媒体によって放送され、またどのような形態で分析されたかについて明らかにする必要がある。

初放送、および現在（2012年6月2日）放送中、および視聴可能なビデオクリップは以下のとおりである。作品として検討の主たる対象となるのは、スペイン語リメイク版である。なお、英語吹き替え版については、今回詳細に検討できなかった。

資料の状況。放映は週6回（月曜－土曜）または週5回（月曜－金曜）で、37週続く。

A) ブラジル・オリジナル版“O Clone” 221回 GLOBO.TV（2001年10月1日－2002年6月14日初放送）<sup>3</sup>

初回の放送は、当時333チャンネルであったIPC.TVを通じて日本でも放映していた。

筆者自身も何回か部分的に視聴していたが、ポルトガル語が現在ほど理解できなかったこと、断片的に聞き取れる科学用語や *reencarnação* (輪廻転生) といった単語が、生硬に響き関心を引き起こさなかった。また、今回の主たる研究対象がリメイク版であり、10年前のドラマがオリジナル版であることに気づくまで、後述するオープニングの問題から、かなり時間を要したことを認めなければならない。

2011年に GLOBO.TV は、10年前に放送されたシリーズを週5回(154回)に再編集して、1月10日(月) - 9月9日(金)に“Vale a pena ver de novo (もう一度見る価値あり)”という番組枠で放送し、終了時52パーセントの高視聴率を獲得した。<sup>4</sup> この高視聴率と後述するリメイク判との相乗効果によるのか、4月2日(月)から同じ番組枠でさらに再放送が行われ6月現在放映中である。<sup>5</sup>

#### A - a) ブラジル・オリジナル版スペイン語吹き替え版(2006年?制作)

やや奇妙な小見出しになったが、“Los Clonadictos (エル・クローン中毒者/マニア/オタク)”という言葉を生み出したスペイン語圏への影響力、その結果としてスペイン語リメイク版が制作されたことを考慮すると、独立した版として検討した方がよいのかもしれない。また、このヴァージョンは、40ヶ国以上に輸出され、各国語の吹き替えや字幕が制作された。You Tube にアップロードされた数だけを見ても、多くの国で人気番組であったことが窺える。2012年6月現在、あるマニアが制作したブログ中の約670あるビデオクリップ“resúmenes”を通じてほぼ全番組が視聴可である。<sup>6</sup> 最初の放送の年月日を確認することはできなかったが、ブログに記載された You Tube への投稿の記録から2006年の半ばには放映されていたと思われる。

#### B) スペイン語リメイク版181(183?)回<sup>7</sup>

R.T.I. Colombia と Telemundo が制作し、2010年2月15日から2010年10月29日まで放送された。日本初回放送は2010年10月4日で、時間帯は毎週月曜～金曜日3:59-4:52であった。日本では、2012年6月現在、ブラジル・オリジナル版(4月3日から再放送)、リメイク版の日本再放送(2011年10月4日(火)から)が並行して放映されている。なお、2001年に制作されたオリジナル版の2011年における再放送も、40%以上の視聴率を獲得した。

### 1. 1 原題“El Clon”と邦題「ヴィーナス」の問題点

約40カ国へ輸出されたこのドラマのタイトルが「ヴィーナス—時空を超えた愛」と改変されたのは、おそらく日本だけであろう。日本の視聴者を配慮した結果であると思われるが、確かに単に「クローン」では、メロドラマとしてではなく、いわゆる「SF特

撮もの」と受け取られるであろう。他の「韓流」や「漢流」と呼ばれる海外ドラマから、「情熱のラテンドラマ」というジャンルとして差別化し市場に投入しなければならない事情は理解できるが、やはり「ラテン」すなわち「愛と情熱」というステレオタイプな図式には、いささかためらいを感じる。ドラマの特に後半部のストーリーに関しては、原題のままでも良かったのではないかという印象が筆者にはある。<sup>8</sup>

## 1. 2 ブラジル版とスペイン語リメイク版の差異について

両者の間には、使用言語と10年の制作年代の他、いかなる相違が見いだせるであろうか。筆者は本稿執筆時点において、リメイク版はすべて視聴したものの、ブラジル版はスペイン語吹き替えを含めても全体の3割程度に留まるため、詳細な比較検討は今後の課題とするが、次の幾つかの点は指摘することができよう。

結論から言えば、基本的には同じストーリーである。しかしながら、仮にドラマを全く未見の視聴者にオープニングのみを二つ連続して紹介したとしたら、タイトルは同一であっても、原作も同一であると気付く人は少ないだろう。

ブラジル版のオープニングの映像と主題歌“Sob o Sol (太陽の下)”は、旧約聖書の「創世記」2. 7およびミケランジェロの「天地創造」の中の「アダム」から着想を得たと思われる。裸体の男性にデザイン化したDNAの螺旋構造を重ね合わせ、さらに左右シンメトリーに画像処理を行なっている。曲は神秘的なモチーフのイントロで始まる。歌詞は内容的にも文法的にも難解である。母語話者にとっても聞き取りやすいものではなかったらしく、特に第一連はブログによって異同がある。このオープニングの終結部は、ミケランジェロの作品と対比すると示唆的である。後者が対置する神とアダムが伸ばした指によって魂あるいは生命、息を吹き込み神が人類の創造を表現した場面であるのに対し、ドラマのオープニングでは一人の裸体の男性が二人に分かれ、左右に別個の道を歩んで行き、全ての秘密が陽の下に暴かれるという歌詞とともに終わる。<sup>9</sup>

他方、リメイク版オープニングは、ヒロインのJade演ずるSandra Echeverríaを中心とした同じダンサーたちが、フラメンコをコロンビア風ラテンにアレンジした曲とともに、イスラム舞踊と西欧のディスコとの間を、コスチュームを変えて頻繁に切り替わる画像で構成されている。二つの世界を彷徨し翻弄される主人公を象徴したオープニングといえる。<sup>10</sup>

これらのオープニングのみから、同一の原作を連想することは困難であろう。当初、筆者は背景となる科学と宗教、イスラム世界と西欧の対比の重点の置き方にブラジル版とリメイク版では差異があるのではないかと考えたが、むしろストーリーの中のテーマのどの要素をオープニングに代表させるかによって生じた相違と考えるのが妥当なようである。もちろん製作国によって異なる「作風」を反映していることは確かである。す

なわち、ブラジルは歴史や社会的テーマを扱った作品が多く、コロンビアは娯楽性に優れた作品が多いということである。<sup>11</sup>

本論の段階において、ブラジル版とリメイク版の比較検討に関し、把握しておくべき両者の相違には次の事柄があろう。

一言でまとめると、リメイク版においては、ブラジル特有の要素が捨象されているということである。それに伴い脇役が整理されている。見方を変えれば、ブラジル版は第一に国内向け放送を前提に作成され、海外への輸出は少なくとも当初は重要視されていないと考えられる。例えば、後半部ストーリーの中心となる麻薬中毒に陥った Natalia (Mel カッコ内はブラジル版の登場人物名) の恋人 Alejandro (Xande) の母親 Gloria の経営する Gloria's Bar-Restaurant は、ブラジル版における Dona Jura が経営する Bar に対応するが、カーニバルのサンバチームや地域のアマチュア・サッカーチームが集うブラジル庶民の交流の場といった側面がかなり薄められている。筆者がブラジル版で驚いたのは、Globo.TV の他番組の出演者や、サッカーの王様 Pelé といった有名人が Bar へ出演していることである。

本論との関係で注目してよい相違としては、西欧社会に理解を示す Ali 叔父が、ブラジル版ではほとんど洋服で登場するのに対し、リメイク版では一貫してイスラムの伝統服で登場することである。ちなみにカトリック司祭の服装は、ブラジル版の Padre Matiulli は黒いスータン姿で登場する。筆者のイメージでは年配または一世代前の聖職者像である。ここで最も注意すべきは、Albieri 博士の表象の相違であろう。ブラジル版では、Juca de Oliveira が初老の白人の科学者という設定で演じるのに対し、リメイク版では、ペルーの俳優 Roberto Moll が野心に満ちた第三世界出身者を演じる。しかしながら、いずれもいわゆるフランケンシュタインのような怪物を生み出した「マッド・サイエンティスト」というイメージではない。なお、俳優の出身地は、ブラジル版では大半がブラジル人であると思われるが、リメイク版では、コロンビア人俳優が比較的多数出演しているものの北米を含むスペイン語各国から起用されている。<sup>12</sup>

二つのヴァージョン全体に関して、比較対照する際に問題になるのは、登場人物の名称の異同である。すでに幾つか言及したように、名前が同一あるいは機械的にスペイン語形に置き換えた場合と全くことなる名称に変更されている場合とがある。アラビア語名の登場人物はほぼ同一のようであるものの、必ずしもスペイン語圏で一般的な名前であるか否かという基準で変更が行われた訳でもないようである。全く変更された例としては、先の神父の他、3人の薬物中毒者 Mel > Natalia, Lobato > Enrique, Regininha > Paula の例がある。今後の課題としたい。

## 2. 原作者 Glória Perez と本論の主題

Glória Perez (1948-) 数多くの人気テレビドラマを執筆したブラジルの放送作家であるが、本稿執筆時点では、原作は正式な形では小説として出版されていないようである。<sup>13</sup> スペイン語吹き替えの台詞を文字化したと思われる私家版はネット上に存在するものの、ダウンロードは困難であった。文字媒体としては、Globo.TV のホームページ (<http://globotv.globo.com/>) に 2011 年に設けられた“O Clone” コーナーがあり、1409 本の 30 秒から 7 分程度の各ビデオクリップにポルトガル語のタイトルと解説が付けられていて、かなり詳細までストーリーの把握は可能である。

原作者は“O Clone”以前に、筆者は未見であるが、代理母または代理出産をテーマにした作品“Barriga de Aluguel”があり、Rede Globo が放映 (1990-1991) している。この作品を執筆する際に得た知見が“O Clone (El Clon)”の後半部における、クローン人間である Daniel を巡る生命倫理の議論、そして出産した母 Dora と遺伝学上父親である Leonardo との間で繰り広げられる法廷での親権の争いに反映されている。<sup>14</sup>

### 2. 1 クロウンの誕生とドラマの背景

本論との関連では、問題は次の様に要約される。登場人物名とストーリーはリメイク版による。<sup>15</sup>

子供を望む黒人の母親 Dora が、夫が不妊症のため、人工授精によって出産する。ところが、生まれたのは、精子の提供者からは遺伝学的に生まれるはずのない白人の形質を持った子供であった。実は、その子 Daniel は、人工授精を行なった医師であり遺伝学者である Albieri 博士が、家畜のクローン事業を共同で推進していた友人 Leonardo の事故死した双子の息子の内の一人 Diego を思うあまり再生を思い立ち、逡巡と葛藤の末、双子のもう一人の兄弟 Lucas の細胞から作り出したクローンであった。このことは、遺伝学上の父である Leonardo にも明かされなかった。Albieri は Daniel を我が子のように溺愛し、他方、母親は疎外感に苛まれ、周囲の目が我が子とは認めないことに悩む。Daniel 自身も自分の真の父親は誰かを問い続ける。そして 20 年の歳月が経過し、Daniel は双子の兄弟と同一の姿に成長し母系に遺伝する痣があることも明らかになり、もはや事実の隠蔽は不可能となる。Albieri は、以前からクローンの存在をほのめかしていた、友人の Ali、そして Andrés 神父に先ず打ち明け、クローン自身に告白する。さらに妻 Luisa、生みの親である Dora、生物学的父である Leonardo にも事の次第を語る。Leonardo が親権を主張し始める一方、Ali と Andrés 神父は共同して事態を取捨しようとする。

本論では、ドラマにおいて、二つの宗教がクローン人間の存在が明らかになった時点で、いかに見解を共有し対応しようとしたか、その描かれ方に焦点を当て考察を行う。

なお、死生観も広義の宗教思想と考えるならば、Albieri 博士の科学による死の克服、

フェレル家の執事 Mama Rosa と薬物依存者であった弁護士 Enrique の輪廻転生 (reencarnación) の思想も検討されるべきであろう。今回は十分に検討できなかったものの、現時点での筆者の所見をいくつか加えると、Albieri の対宗教としての科学観には、とりわけブラジルで特異な影響力を持った実証主義 (positivismo) の残影といったものが感じられないだろうか。一方、輪廻転生は、最後の審判や復活を教義に持つイスラム教やキリスト教は認めていない訳であるが、ドラマにおいては、クローンの属性の一面を示す思想ともいえる。興味深いことは、知識人でもある薬物依存からの救済を信仰に求めた弁護士 Enrique がそれを信じ、さらに信心あるいは迷信深い初老の女性である Mama Rosa が、Enrique に影響されて、クローンの Daniel を亡くなった Diego の生まれ変わり信じ、Daniel の言動に Diego 生前の記憶を見出そうとする設定である。後述のように、Mama Rosa から「一度死んで、そして生まれ変わった」と言われ、Daniel の表情が一瞬こわばった場面が印象的である (第 135 回)。

## 2. 2 Albieri 博士、Ali 叔父、Andrés 神父、三者の関係について<sup>16</sup>

スペイン語リメイク版の Albieri 博士は、上述のように、20 年前に人のクローンを成功させた第三世界出身の科学者という設定である。二人の宗教者との関係は、神学校時代に Andrés とともに聖職者の道を目指すのが、後に信仰を捨てて医学の道に進む。しかし、神父に叙階された Andrés との親交はその後も続く。進路を変えた後、マドリッド・コンプルテンセ大学で留学中の Ali と親友になる。リメイク版では必ずしも経緯が明確ではないが、Albieri を介して西欧社会に理解のあるイスラム教徒とカトリック司祭は関係を築き、クローンである Daniel の問題を解決しようとする。

## 3. イスラム教とキリスト教 (カトリック) の創造論・生命倫理に関する共通項

ドラマの後半部において、Ali と Andrés の役割は重要であると思われる。宗教間の教義や神学的テーマを比較検討する議論は、ともすれば図式的あるいは硬直したものに陥りがちであるが、少なくとも人間の創造に関して、二つの宗教は、以下に示すように、基本的な観念を明確に共有していると言えよう。

### 3. 1 聖典の記述

先ず両者にとっての共通の聖典である「旧約聖書」においては次のとおりである。旧約聖書・創世記 2. 7 (引用は新共同訳、下線は筆者による) :

「主なる神は、土 (アダマ) の塵で人 (アダム) を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。」

しばしば指摘されることであるが、創世記において人間の創造は2回それぞれ異なった伝承に基づいて語られる。<sup>17</sup>

イスラム教においても、コーランには、人間は土から造られたと記されている。人間創造については、「巡礼の章」5と「信ずる人々の章」12-14の2箇所記述があるものの、「命」「息」あるいは「魂」を人間に吹き込むという記述は直接的には見出されないようである。<sup>18</sup> しかしながら、預言者の言行録およびその伝承を集成した「ハーディース」には、母親の胎内で肉塊となったのち、魂が吹き込まれると明確に示されている。

伝承集成の中で最も権威があるとされる「日訳 サヒーフ ムスリム」(日本ムスリム協会 1989年、第3巻 p.569ff.)「定命の書」では次のように記されている：

「アブドラー・ビン・マスウードは話すことでは最も正直で啓示されたものには最も信頼の置ける人物であるアッラーの使徒が次のように語ったと記されている。

あなた方の誰でもそうだが、母親の体内で四十日間でその組織が集められ、その後同様の日数で凝血となる。それから同様に肉塊となる。そして天使が遣わされてそれに魂を吹き込む。それで天使は四つの言葉(を書くこと)を命ぜられる。それは胎児の生計と寿命と行為と幸不幸を書き留めて決定することである。・・・」(下線は筆者による)

### 3. 2 二人の宗教者とクローン

市井の中で実際にこのような場面が起こることは考えにくいものの、ドラマの原作者や関係者は、二つの宗教の和解と協力を希求しつつこれらの場面を制作したのであろうか。以下に、最も宗教と生命倫理の関係を反映していると考えられる場面の日本語字幕を示す。なお、人名の表記は字幕による。[ ]は筆者の加筆。

第133回(132, part 2)<sup>19</sup>

[ハーディ、サイドに拒まれ家を去る]

(ダニエル・神父への問い) 孤独って知ってる? 世界のどこにも帰属する場所のない感覚 / 周囲の誰ともつながりがない感覚 /

[場面、神父館へ切り替わる] そんな気持ち / 世界で1人きり / 居場所もない / 僕はどこから来たのか? どう生まれたのか? / 本当の親は誰か? / 皆 意見が違うんだ /

(神父) もうすぐ分かる / 真実は強い 隠し通す事は出来ない /

(ダニエル) 神父様 / 例え子供を産んでも / その人が母親でない事もあるの? /

(神父) あるとも / 君は母親から生まれはしたが / 科学的観点から見ればそうではない /

(ダニエル) なぜなの? /

(神父) 例えば私が人工授精で生まれるとしよう／そのためには女性の子宮が必要だろう？／

(ダニエル) うん／

(神父) 母親の子宮でなければ 別の誰かの子宮がね／どちらにしても／子宮で私を育て産んでくれた女性が／私の母親なのさ／

(ダニエル) ママは僕を産んだけど 母親ではないとパパ [アルビエリ] が言った

(神父) それは／彼にしか答えられない問いだ／

神父は、人工授精による誕生を認めた上で、産み育てたドーラが母親であるという立場を取ろうとする。

#### 第 135 回 (134, part 6)

上述の聖典に依拠したクローンに対する Ali の態度を示す場面である。

(アリ) アルビエリに会いに行く／

(ソライダ) お願いします／悪霊を連れて来ないで下さい／

(アリ) アルビエリは悪霊じゃない／我々と同じ人間だ／

(ソライダ) 違います／人の体から影を剥がし 影は苦しみさまよう／悪霊の仕業としか思えない／恐ろしいんです あれは医者に化けた悪霊です／

(アリ) お前の考えは正しいよ 彼は影を創った／だが あの影には魂がある 彼は創れなかった／影に魂を入れたのは神だ／

(ソライダ) どうやって魂が？

(アリ) 長老<sup>20</sup>に聞いた／旧友に会ってみれば／何か手立てを見つけられる筈だ／

アリは、イスラムの教えの中で、ダニエルを人として認めようとする。アリが依拠したのは「長老」の見解であり、長老は、上述のハディースを根拠にしていたと考えられる。西欧世界に理解を示すアリが、科学技術との単なる妥協ではなく、あくまで正統的なイスラムの立場を維持した上でクローンの問題に対処しようとしている点、さらに、靈魂論に立脚した明確な人間観を示しているという点で非常に興味深い部分である。

#### 第 136 回 (135, part 5)

この回においては、4分程度の間、死生観や生命倫理に関して多くのことが語られる。



[亡くなったディエゴの部屋で]

(ママ・ロサ) あなたの部屋に慣れてね／旦那様が あなたにこの部屋をと／

(ダニエル) 分からないよ／

(ママ・ロサ) 思い出せるかもよ 手に触れてみて／あなたが死んだ時のまま／

(ダニエル) 死んでないよ／

(ママ・ロサ) 死んだのよ でも また生まれたの／人は皆 死んで生まれ変わる／エンリケに聞いた

(ダニエル) 本当？

(ママ・ロサ) そうよ／それから／生まれ変わった後 前世は憶えてないそうよ／

[レオナルドとアルビエリ] (アルビエリ) ディエゴが死んで／私は…／絶望した／人は必ず死ぬという考えは拒否する／まさに人類の目標は死の克服にある／だから我々は輪廻転生の考えに魅了される／ディエゴを失い その考えに取り憑かれた／なぜなら 私は絶望していたからだ／

[神父館にて]

(神父) 恐るべき事さ／まさかこんな事まで…／周囲の人の感情を踏みにじり 人生を書き換えた／

(アリ) 彼は神を持たないからさ／だから何でも平気でやる／限度を知らない／

(神父) 虚栄心の罠に落ちた／

(アリ) あの青年はどうなる？／それが気懸かりだ／彼の場所はあるのか？／人から奪った影に 別の命を与えるなんて／

(神父) もし彼が本当に影ならどうやって生き続けるんだ？／神様 何て事だ／

(アリ) [アラーの] 創造物に手をつけるとは！／

(神父) 彼の父は？母は？ どちらも存在しない／父母の定義を変えて「人を創った人」とでもしない限りは／

(アリ) 1つだけ教えてくれ／これに関する 教会の本当の立場は？

(神父) 反対だよ／クローンは絶対に許されない／誰もが 人間らしく生まれるべきだ／

(アリ) ああ／その通り／

[フェレル邸：マリサとレオナルド]

(マリサ) 嘘みたいな話ね／

(レオナルド) マリサ 本当なんだ／会えば疑えなくなるよ／

(マリサ) 本当に人間のクローンなの？／知る限りでは犯罪だし 宗教的にも罪よ／

様々な立場から生命が語られていると言える。まず、輪廻転生に関しては二つの観点から語られる。すなわち、クローンであるダニエル自身に対して、弁護士エンリケの発

言に論拠を置くママ・ロサの宗教的生死観とアルビエリの科学の究極の目的としての死の克服である。次に、アリがアンドレス神父を訪ね、カトリック教会の立場を確認する場面である。共有する聖典に基づき生命の創造および誕生に関し深い理解を持つ二人には、事態を前に共通する認識を持ち得る基盤がすでに出来ていたと言える。マリサの発言の中で、犯罪であるという認識は問題なく理解できるとして、宗教的にも罪であるという部分には、ある種文化圏の違いといった距離感を感じる日本人も多いのではないであろうか。筆者には、人型ロボットの開発を巡って、日本の技術者がヴァチカンにその是非の見解を求めたニュースが想起される。<sup>21</sup>

第138回 (137, part 7)

この場面以前にダニエル自身は周囲から奇異の目で見られていることを意識している。幼年期可愛がってくれたルイサからも歓迎されない。

[アルビエリ邸：アルビエリとルイサ]

(ルイサ) ダニエルと話さなくては／上手く伝えないと大変な事になる／

(アルビエリ) そうだな／

(ルイサ) クローンだと知ったら／どんな反応をするか…／

(アルビエリ) クローンなんてSFの話で 異星人か 不気味な実験室から来ると／皆が思ってるけど／違うんだ 君や私と同じ人間さ／

(ルイサ) そう思うの？

(アルビエリ) もちろん ダニエルを見る／私達と同じだ いや私達の多くより上さ／とても健康的だしね／

(ルイサ) ええ／自分の出生の秘密を知っても 普通でいられるかな？／

(アルビエリ) 異星人のように見なければね／

(ルイサ) どうか…／怖いわ 普通の人の行動は予測出来ても／彼は違う なぜなら…／

(アルビエリ) 彼は同じだ ルイサ／

(ルイサ) 標準的な人間ではないから心配なの／

(アルビエリ) 私が創った動物のクローンは全て健康だ／元のより優れたものもいる／事情を知らなければ同じなのさ／

(ルイサ) でもそれは 人間ではなくて動物の話よ／ [チャイム] 私が出るわ／

[アンドレス神父来訪] (ルイサ) 神父様 どうぞ／

(神父) どうも／

(アルビエリ) やあ 何の用だい？／

(神父) 逃げるから連絡せずに来た アリも来るよ／

(アルビエリ) 何がしたい？／最後の審判気取りだな！／

(神父) 話がしたい／

ルイサの言葉の中の、人間と動物とは異なるという生命観に、やはり多くの日本人はある種の違和感を覚えなだろうか。

第 139 回 (138, part 7 - part 8)

最も印象的な場面は、アルビエリを伴い、アリとアンドレス神父がエステラとドーラ母娘を慰めようと試みる場所である。このシーンに関して、イスラム教とキリスト教と何が異なるのかと驚愕した視聴者もあったのではないと思われる。

[ドーラ宅：ダニエルとドーラ、エステラをアルビエリ、神父、アリ訪問]

(ダニエル) 僕がクローン？／

(ドーラ) 違うのよ 違うわ／お願いだから／この人達はあなたを傷付けるだけ／

(アルビエリ) 話させてくれ／お願いだ／

(ドーラ) 駄目！／ウンザリ！／これ以上何もいわないで！

(エステラ) 神父様まで関係しているなんて！／

(神父) 私は…／

(エステラ) 教皇様に手紙を書く！／告発するわ！／

(アリ) 神様 [¡Alá!] !／

(アルビエリ) 彼に説明させてくれ／

(ドーラ) これ以上 傷付けしないで／

(ダニエル) ママ 僕は聞きたいんだ／

(ドーラ) 駄目よ！／出て行ってちょうだい！／二度とこの家に来ないで！／

(神父) [アルビエリ] 帰った方がいいだろう／

(アリ) その通り 聞いてはくれないよ／

(ドーラ) 子供が欲しくて診療所に行ったのに／何をしたの？／人生を台無しにした！／20年間もつきまとって！／母になる喜びまで奪った！／なぜなの？／私が何をしたの？ なぜこんなひどい事を？

(アリ) 奥さん！／

(ドーラ) 嫌よ！／息子に近付かないで！／誰もよ！／

(神父) 落ち着いて／

(ドーラ) 嫌よ 誰にもダニエルを傷付けさせない！ [よろめく] ／

(ダニエル) ママ！

(エステラ) ドーラ!

(ダニエル) 座って／大丈夫?／静かに／

[アルビエリ宅：ルイサとアニタ]

(ルイサ) 一言もよ アニタ／苦しかったわ／

(アニタ) 彼に説明するのは難しいわ／

(ルイサ) 私も一緒に行くべきだった／ドーラは信頼してくれてた／

(アニタ) もしも私がドーラだったら／何も 誰も信じられないと思う／

(ルイサ) アニタ／

(アニタ) 本当よ 私だって 理解しているフリも出来ない／教育がなければ なおさら／  
診療所で人工授精を受けて／妊娠し 出産したのに／母ではないと言われる／誰でも変  
になる／

(ルイサ) 遺伝的に母でなくても産んで育てた／

(アニタ) そんなの彼女には分からないわ／じゃあ 誰が母親だと思うの?／

[再びドーラ宅]

[アリとドーラ] (アリ) 私の見解では／アルビエリが創ったとしても／母はあなただ／

(ドーラ) その通り／

(アリ) アルビエリとは長い付き合いで友人だが／彼の行為は許せない／アラーに背い  
た／

(ドーラ) アラー [誰のこと]?／

(アリ) アラビア語で神の事を指す／アルビエリが彼を創ったのは／神がお許しになっ  
たからだと思う／これはアラーから人類への警告なのだ／神がそうさせた／

(ドーラ) なぜ私なの? 私が何をしたの?／誰も傷付けた事はない ただ母親になりた  
かっただけよ／

(アリ) 神が与えた試練だ／忍耐力 寛容さ 信仰を試されているのさ／あなたも試され  
ている／

[神父とエステラ] (神父) [私たちは必ずしも常には] 神の意思は分からないが／

(エステラ) 神様がこんな事を認めるはずはないわ／

(神父) これを罰と考えてはならない／ドーラは傷付いたが 神は報いて下さるだろう／

[アリとドーラ] (アリ) やがて最後の審判の日が来た時に／神の前にできれば／今あなた  
が流す涙もきっと報われるだろう／涙は あなたに罪がない事の証だ／

(ドーラ) 神は関係ないわ アルビエリがした事よ／

二つの宗教が共有する最後の審判の教えによって母と娘の説得を試みるこの場面は、  
Dora を納得させられなかった Ali の落胆で終わる。一方で、既存の宗教が、必ずしも世

界の悩みや苦しみに対応できない現状を表した場面であろうか。

### 3. 3 ドラマにおけるイスラム像

筆者が理解した範囲では、ドラマ内の婚姻に関する議論、すなわち、離婚の規定や乳兄弟姉妹は結婚できないなどの規定は、基本的に正統な解釈と言える。一点のみ、Nazira が意図した「一時婚 *matrimonio temporal*」(第 166 回)に関しては、否定されるべき行為であるという枠組みは変わらないが、ニュアンスにおいて、筆者が参照した「日訳・サヒーフ・ムスリム (ハディース)」といささか異なるようである。<sup>22</sup>

西欧世界に警戒感を持ち、Jade や Ali と対立する Abdul 叔父にしても、決して悪意ある人物としては描かれていない。特にリメイク版における Ali とは異なった立場でイスラムの伝統を誠実に実践しようとする姿は、否定的な印象を視聴者には与えないであろう。また、隣人の Gloria (Alejandro の母) に一瞬目を奪われ我に返る場面の設定などは、むしろ厳格一途ではない人間観察に優れた教えを示すものとして、筆者は好感を覚える。また、スペイン語リメイク版を視聴していて、ドラマの中のイスラム文化に、西欧世界で失われつつある秩序や規律を見出そうとするのは、筆者だけであろうか。無論、Ali と Abdul、ベールを巡る Mohamed 一家の騒動を、イスラム社会における近代化を巡る立場の相違と解釈することも可能であろう。

### 3. 4 オリジナル版制作 Globo.TV の宗教的立場と取材力に基づいた番組

視聴者の多くがカトリックであるという前提で番組の編成や制作を行なっているという表現が、最も妥当な評価であろう。カトリックに関係した番組としては、Padre Marcelo Rossi (1967-) が主宰するミサの中継や、子供向けユーモア番組 “As aventuras do Didi” の主演者 Renato Aragão (1936-) が家族と共に出演したカトリックの祝祭などを筆者は視聴している。<sup>23</sup>

例えば、週 6 回 “Sagrado (聖なるもの)” というブラジル国内の各宗教・各宗派の代表者が、各週に設定された儀式、人間の尊厳、性道德などの共通テーマに関して、毎日交代で各自の教義や立場を 3 分程度簡潔に紹介する番組を放映している。(2012 年 6 月現在。日本への放送時間：火-土 07:40-07:50 頃；日曜日は各週の総集編 05:30-05:40 頃) カトリックをはじめ、イスラム教、ユダヤ教、仏教、プロテスタント、ペンテコステなどキリスト教諸派、カトリックの聖人崇敬とアフリカ起源宗教が混淆したウンバンダ、先住民の宗教など、ブラジル国内の宗教の多様性を再認識する内容である。ちなみに、ブラジル政府の 2000 年統計では、約 1 億 7 千万の人口の内、イスラム教徒は 0.1 パーセントにも満たない 3 万人弱である。<sup>24</sup>

Globo.TV は南米で最も有力な放送局の 1 つといえ、外国取材をはじめとした長寿ド

キュメンタリー番組“Fantástico”, “Globo Repórter”などの蓄積では、他局の追従を未だに許さないであろう。テレノベラにおいても海外取材の知見は活用され、一種「異国」をモチーフにしたジャンルが形成されているように思われる。例えば、Glória Perez原作による近年制作された“Caminho da Índia (インドの道)”(2009)も優れた作品として Emmy Awardsをはじめ幾つかの受賞をしている。番組に描かれたイスラム像には様々な批判も寄せられたが、単なる「異国趣味」のレベルに留まるものではないであろう。<sup>25</sup>

#### 4. 結語

本稿を結ぶにあたって、筆者の問題意識は、果たして El Clon (O Clone) のような作品をアングロ・アメリカやヨーロッパで制作することが果たして可能であるかということである。ドラマの社会的背景として、3つのテーマ、すなわち1) クローン(科学・生命倫理) 2) 宗教: イスラム教・キリスト教(カトリック) 3) 麻薬: 薬物依存者と更生、家族の支援が扱われていることを冒頭で指摘した。これら個々の問題に関しては、多くの優れた作品が世界中ですでに制作されたであろう。複数の宗教や信仰、世界観が登場するドラマも必ずしも例外的なものではないであろう。しかしながら、30数週間150回を超える量的なスペースがあるとはいえ、1つの作品の中で、これら3つのテーマを扱い、教義的な問題にまで踏み込んで複数の宗教の連携の可能性をも表現した作品を筆者は寡聞にして知らない。

この作品は薬物乱用防止運動への貢献をはじめとして、社会的にかなり大きな影響を与えたと言える。<sup>26</sup> テレノベラによる社会的問題意識の共有は後進性を意味するのだろうか。ブラジル制作のテレノベラでしばしば指摘されることは、「アマゾンに住む人々からサンパウロの高級住宅街に住む人々まで」と形容される様々な社会的背景を持った幅広い視聴者層を対象としていることである。<sup>27</sup> 広範な視聴者層とともに指摘しておきたいことは、制作から10年を経た後の再放送とリメイク制作の意味するところである。すなわち、ブラジルからラテンアメリカ、世界へ「輸出」され、日本でも放映された。

このドラマはラテンアメリカ文化の普遍的創造性の新たな一例といえるのではないだろうか。

\* ホームページ等のアドレスは2012年5月末日までにアクセスしたデータである。

---

<sup>1</sup> 本稿は、2012年6月2日に中部大学で開催された日本ラテンアメリカ学会第33回定期大会での発表「“El Clon”における二つの宗教」に基づいて加筆修正したものである。なお、本研究は、科学研究費補助金交付研究基盤研究(C)課題番号22520559「スペイン語・ポルトガル語近親言語文化間の外国語教育と相互理解の諸相」(代表・水戸博之)H22-H26の一分野として行われた。

<sup>2</sup> 参照、野内遊・水戸博之、「テレノベラ El clonにおける麻薬中毒者の表象とその背景—ナタリ

ア・フェレルの転落と更生を中心に―』『言語文化論集』第XXXIII巻第2号(2012), p.113-p.128.

<sup>3</sup> [http://pt.wikipedia.org/wiki/O\\_Clone](http://pt.wikipedia.org/wiki/O_Clone) および各国語版参照。再放映されたブラジル・テレノベラに関してウィキペディアのデータを書籍に編集したのとして“Vale a pena ver de novo”, USA, 2011, ISBN:9781231482506がある。

<sup>4</sup> 視聴率 (audiência) については例えば次を参照。いずれのデータも 20 パーセント以下の数値は見られないようである。

<http://natelinha.uol.com.br/noticias/2011/09/10/o-clone-termina-com-audiencia-em-alta-na-globo--145803.php>

ブラジルでは週 6 日 (月 - 土)、スペイン語圏では週 5 日 (月 - 金) という放送パターンに地域的差異が一般的に見られる。O Clone の週 5 回再編集版は、ブラジル向けに制作されたものであるが、スペイン語圏や他の言語圏への再輸出を前提にしたものであろうか。マーケティングの観点からも興味深いところである。参照：野内・水戸, op.cit., p.119。2012 年 6 月放映中のテレノベラ 3 作品 (Cheias de Charme; Avenida Brasil; Amor Eterno Amor) は週 6 回である。Cf. <http://www.ipctv.jp/>

<sup>5</sup> 筆者は全く不注意で、放送開始から第 7 週経過した時点で気づきデータの収集を慌てて始めた。現在の日本での放送は、以前のようにブラジルとの時差の調整は行わないので、日付が一日ずれて火曜日から土曜日の放送となる。ほぼ正午から約 1 時間、木曜日のみサッカーの番組の関係で 13:45 から 14:00 開始となる (2012 年 6 月現在)。

<sup>6</sup> <http://www.el-clon.com/>

<sup>7</sup> 日本の放送は、番組紹介では全 183 話となっているものの、筆者の記録では全 184 回である。原放送では全 181 話であったが、最後の 2 話は長時間特別版で、それぞれ 2 回に分割して放送された。Cf. <http://news.walkerplus.com/2010/0930/15/>

番組に関しては、[http://es.wikipedia.org/wiki/El\\_clon\\_\(telenovela\\_de\\_2010\)](http://es.wikipedia.org/wiki/El_clon_(telenovela_de_2010)) および各国語版。スペイン語圏のテレノベラに関してウィキペディアのデータを書籍に編集したのとして“Telenovelas en español”, USA, 2011, ISBN: 9781232484097がある。なお、上述のデータには言及はないが、日本語版オープニングには、脚本：Roberto Stopello; Sandra Velasco となっている。

<sup>8</sup> BS ジャパンは、この作品以前にも「情熱のラテンドラマ」というジャンルで「マリナ～恋に落ちた女神、セカンドチャンス、ディアナ～禁断の罠、ビクトリア～愛と復習の嵐、エンジェル～天使のような反逆者」を放映している。Cf. <http://www.bs-j.co.jp/latindrama/#dvd>

日本語版公式 HP: <http://www.bs-j.co.jp/venus/> 各回の日本語ストーリーが検索可。

<sup>9</sup> 作詞者作曲者名は公開されていないようである。また歌詞についても放送を聞き取って掲載したためか、ブログにより異同がある。母語話者にとっても第一連が特に聞き取りにくいようである。

筆者が聴き取り理解した歌詞を次に掲載する。カッコ内は異読である。明らかに旧約聖書に基づいている。

Sobre as nossas cabeças um (/o) sol /Sobre as nossas cabeças a luz /Sob(re) as nossas mãos a criação /Sob(re) tudo (/sobretudo) o que mais for (d)o coração (筆者試訳：「我らの頭上に太陽、我らの頭上に光、我らの手に世界、万物に心」) (前置詞の sobre と sob では「・・・の上 / ・・・の下」と意味が反対である。太陽に不定冠詞 um の方が面白いが。)

Luz da fé que guia os fiéis /Pelo deserto sem água e sem pão /Faz de pedras um rio brotar /Faz do céu chover forte o maná (「信ずる者らを導く信仰の光は / 水もパンも無い砂漠に / 石から河を湧き出させ / 天からマナを激しく降らせ」)

Quebra o vaso de barro do teu coração / (Com) o melhor vinho do teu amor / Pois quer a lei (além) que ele se perca no chão / E floresça o deserto aos seus pés (「汝の心の土塊の器を壊すのは／汝の愛の極上の酒／すなわち定めは彼が地上でさまよい、彼の足元の砂漠が花咲くことを欲した」)

Regando as areias/ regando-se (recriando o regato e) as luzes do / Éden das flores / Na terra dos homens do circo dos anjos guardiões / Implacáveis do céu (「砂地を潤しながら／花のエデン(／)の光は満ち溢れ／天から遣わされた無慈悲な見張り／天使たちの舞う人間の地へ」)

Dançamos a dança da vida / No palco do tempo / Teatro de Deus / As cores santa(s) dos (Árvores, sândalos) sonhos (d)Os frutos da mente são meus e são teus (「生命の踊りを我らは舞う／時の狭間／神の舞台で／夢の聖なる彩り／想いの果ては我と汝に」)

Nossos segredos guardados / enfim revelados nus (luz) sob o sol / Segredos de Deus tão guardados / enfim revelados nus (luz) sob(re) o sol (「我らが守りし秘め事は／ついに陽の下に赤裸々に暴かれる／かくも守りし神の秘め事も／ついに陽の下に赤裸々に暴かれる」)

<sup>10</sup> 他方、リメイク版は典型的なラヴソングである。Querer と amar はここでは異なるのであろうか。EL VELO DEL AMOR (愛のベール) 歌： Sandra Echeverría y Mario Reyes

Solo una mirada y me robaste el corazón / Tuviste lo prohibido / Tu amor está perdido (「たった一つの君の眼差しが私の心を奪ってしまった。／君は禁ぜられたことを犯したのだった／君の愛は失われている」)

Si se quiere / Si me quieres baila / Si se ama / Estás hermosa / Solo por ti guardo mi rosa / Si se quiere / si me quieres baila / Baila la noche un velo esconde (「もし求めるならば、もし君が私を求めるなら、踊ってくれ／もし愛するならば／君は美しい／ただ君ゆえに私は私のバラ色の夢を抱き続ける／もし君が私を求めるならば、踊ってくれ／夜よ踊れ、ベールよ秘めよ」)

Baila si doblas la cintura / y mira la sabrosura con el velo del amor / Mueve cuerpo con sentimiento / Libera ese movimiento fruto de la pasión / Tú cambiaste mi forma de ser (「踊ってくれ、もし君が揺れるなら／そして愛のベールに包まれた美しさを見よ／心をこめて全身を／その動きを情熱の果実として解き放て／君は私の存在の姿を変えたのだ」)

y verás que la vida mía/ ya no quiero que te alejes / Quédate aquí de noche y de día / No me dejes tú eres mi vida (「そして君は知るだろう、我が命よ、決して君が遠ざかるのを私が望まぬことを／君はここに夜も昼もとどまれ／私を置いて行くな、君は我が命」)

<sup>11</sup> 各国のテレノベラの特徴については、野内・水戸, op. cit., p.116 参照。なお、二つのヴァージョンについて、あくまでブラジル版の優位さを主張するブログの投稿者が、原作者 Glória Perez 自身からたしなめられるというスペイン語の記事がある：“El Clon: Gloria Perez Me Calla” <http://novelalounge.com/n/2010/02/18/el-clon-gloria-perez-me-calla/>

<sup>12</sup> 野内・水戸, op. cit., p.128 注 8 参照。ウィキペディア・スペイン語ページの“Elenco y personaje”の項目に国旗のアイコンで出身国が示されている。

[http://es.wikipedia.org/wiki/El\\_clon\\_\(telenovela\\_de\\_2010\)](http://es.wikipedia.org/wiki/El_clon_(telenovela_de_2010))

<sup>13</sup> Cf. [http://pt.wikipedia.org/wiki/Gl%C3%B3ria\\_Perez](http://pt.wikipedia.org/wiki/Gl%C3%B3ria_Perez);

<sup>14</sup> 前掲“Vale a pena ver de novo”, p.17-p.18: “Barriga de Aluguel”の項目、およびウィキペディア“O Clone”; “El Clon”; “Glória Perez”各項目参照。

<sup>15</sup> 配役に関しては、英語版ウィキペディアの“Main cast”の項目を参照。

[http://en.wikipedia.org/wiki/El\\_Clon](http://en.wikipedia.org/wiki/El_Clon)



<sup>16</sup> 本稿では「二人の宗教者」という表現で Ali 叔父と Andrés 神父の両者を呼称するが、より正確に言えば、貞潔の誓いを立て家庭を持たないいわゆる「出家」という意味での聖職者はカトリックの神父である。Ali 叔父には複数の妻がいる。イスラム教では独身主義よりも結婚を奨励し、一般に高位聖職者と呼ばれる人も妻子がある。この点ではプロテスタントに近いと言える。『日訳 サヒーフムスリム』（日本ムスリム協会 1989 年、第 2 巻 p.435ff.）「結婚の書（キターブ・ニカーハ）」参照。

<sup>17</sup> もう一つの記述は、先行する「創世記」1. 27 である。「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。男と女に創造された。」

<sup>18</sup> 筆者が参照したコーランの訳書：藤本・伴・池田訳『コーラン I・II』中公クラシックス E 7, 2002 年。「巡礼の章」5：「人々よ、もしおまえたちが復活を疑っているならば、われらがおまえたちを土から作り、ついでに一滴から、それから凝血、さらに形をなした肉塊と形をなさぬ肉塊から創ったのは、おまえたちに明らかに示すためである。そして、われらが欲するものを定まった時期まで胎内にとどめおいたのち、おまえたちをみどり児として生みださせる。……」；「信ずる人々の章」12：「われらは土の精髓から人間を造った。13 ついで、それを一滴として堅固な宿所に置き、14 その一滴から凝血を造り、そして凝血から肉塊を造り、肉塊から骨を造った。それから骨に肉を着せ、こうして彼を一個の他の生き物として造りだした。もっともすぐれた創造者なる神が崇められんことを。」

<sup>19</sup> 放送回は日本で放映された回数である。カッコ内は次のビデオクリップによる。各回 8 パート程度に分かれている。<http://deoplay.com/category/novelas/el-clon/> 収録の回数とは、それぞれ第 132 回、第 134 回、第 136 回、第 137 回、第 138 回と、1 回ずれがあるようである。

<sup>20</sup> ドラマにおいては「長老」は“Cheij”と発音されているようである。他の番組“Sagrado”で気づいたことであるが、ブラジル版の“*Sheikh*”に対応する。スペイン語に存在しない非スペイン語系人名等においても“sh”の音は“ch”と発音される傾向が見られる。例：Natasha (Natacha)。「長老」は、本来スペイン語では *jeque*、アラビア語のスペイン語音写では *shayj* または *sheyj* になるはずである。ドラマでは頻繁にアラビア語が表れる。登場人物が使用する主要な語句は、ブラジル版 *O Clone* に関する一覧であるが、次を参照：“*Telenovelas de Brasil*”, Menphis, USA, 2011 (ISBN: 9781231450697), p.23 “*Frases árabes usadas por los personajes*”. 文献自体はスペイン語で書かれた 84 ページの冊子である。ブラジルで制作されたテレノベラのスペイン語圏への影響力の大きさを窺う事のできる資料でもある。

<sup>21</sup> “An Interview with Asimo robots chief engineer”: “...Sakagami agrees with the oft-quoted belief that the concept of robots in Japan differs from that in Europe and the United States, a difference that is said to spring from differences in religious beliefs. Due to such concerns, when Honda Motor Co. started developing Asimo, it asked the Vatican whether the production of humanoid robots would be acceptable for Christians. The Vatican's response was moderate, showing a full understanding toward the company's project. ...Source: *Fumiko Endo, The Yomiuri Shimbun, January 1, 2003*” <http://radio-weblogs.com/0105910/2003/01/07.html> (2012/06/14 アクセス)

<sup>22</sup> 『日訳 サヒーフムスリム』「一時婚の禁止に関して」第 2 巻, p.438-p.444；「結婚の障碍に関して」第 2 巻, p.444-p.446。

<sup>23</sup> Rossi 神父に関しては [http://pt.wikipedia.org/wiki/Padre\\_Marcelo\\_Rossi](http://pt.wikipedia.org/wiki/Padre_Marcelo_Rossi) 参照。日本でも 1999 年に CD『神をたたえる歌／マルセロ・ホッシ神父』PHCF3524 が発売されている。なお Renato Aragão は 1991 年に UNISEF 大使を務めている。 [http://pt.wikipedia.org/wiki/Renato\\_Arag%C3%A3o](http://pt.wikipedia.org/wiki/Renato_Arag%C3%A3o)

<sup>24</sup> 参照：野内・水戸, op.cit., p.125。

<sup>25</sup> ブラジル版に描かれたイスラム像への反響を分析した研究として次の論文がある。Barbosa, Elizabeth. 2005. *The Brazilian Telenovela “El Clon”: An Analysis of Viewer’s Online Vicarious and Virtual Learning Experiences*. Dissertation. Lynn University.

<sup>26</sup> 薬物乱用防止への貢献により、米国 FBI は作者に賞を授与している。

[http://pt.wikipedia.org/wiki/O\\_Clone](http://pt.wikipedia.org/wiki/O_Clone) “Recepção” の項目および次の記事を参照。

<http://redeglobo.globo.com/novidades/noticia/2012/01/voce-sabia-gloria-perez-ganhou-premio-do-fbi-por-causa-de-o-clone.html>

<sup>27</sup> 野内・水戸, op.cit., p.118 : Rêgo 2011 : 76 による。他方、2000年頃までのメキシコのテレノベラの視聴者層はかなり限定されていたようである。梅本英二「メキシコのテレノベラ：ナショナルリズムとメロドラマの視点から」『金城学院大学論集 社会科学編』第2巻第2号（2006.3）, p.66-p.77 参照。